



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 に向けた取組み Vol.3 「バリアフリー設備整備編」

前回、東京でオリンピック、パラリンピックが開催された1964年に比べ、オリンピック、パラリンピックの大会規模が大きくなるとともに、東京の地下鉄ネットワークも拡充し、開催都市の交通インフラである東京メトロに寄せられる期待も大きくなりました。今回は、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた東京メトロのバリアフリーに関する取組みをご紹介します。

東京メトロは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のオフィシャルパートナー(旅客鉄道輸送サービス)です。

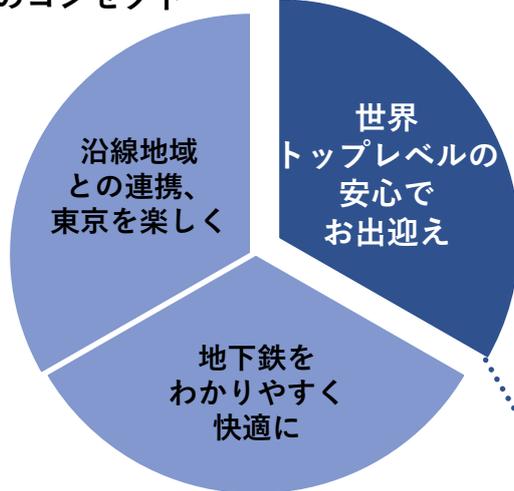
◎東京メトロにおけるバリアフリーに関する取組み

シームレスに安心してご利用いただけるような駅環境づくり

東京メトロでは、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて2014年9月に発表した「東京メトロ“魅力発信”プロジェクト」で掲げる3つのコンセプトのうち「世界トップレベルの安心でお出迎え」を実現するため、より一層のバリアフリー設備整備を推進しています。

ご高齢のお客様、お身体が不自由なお客様、お子様連れのお客様などがシームレスに安心して駅をご利用いただけるような駅環境づくりのためのバリアフリー化への取組みについてご紹介します。

■ 3つのコンセプト



■ 主なバリアフリー設備整備

トイレの洋式化・多機能トイレの整備

東京2020大会時には設置率100%の予定です。



プラットフォームと車両床面の段差・隙間の縮小

車いすをご利用のお客様等のより円滑な乗降を目的に会場最寄駅を中心に整備します。



エレベーターの整備

1ルート整備 会場最寄駅を中心に複数ルート、乗換ルートを整備します。(詳細は次ページ以降でご紹介します)

■ その他のバリアフリー設備整備 (一部)

駅設備

- エスカレーター
- スロープ
- 誘導ブロック
- 音響案内・音声案内
- 点字運賃表

車両内設備

- 車両用フリースペース
- 車内点字案内標

※その他の設備は東京メトロ公式HPでご紹介しています。



■ バリアフリー化への様々な取組み

ハード面の整備だけでなく、駅社員によるお声がけやサポート等、ソフト面でのサービス拡充のほか、Webサービスを活用した新たな取組みも実施しています。

○全駅社員のサービス介助士資格の取得

全駅社員によるサービス介助士の資格取得を推進しており、2018年3月末までに対象社員の資格取得を概ね完了しています。

※サービス介助士とは、お身体の不自由なお客様等に安心してご利用いただけるような接客やお手伝いができるよう、公益財団法人日本ケアフィット共育機構が指定する研修を受講した者に与えられる資格です。

○ベビーメトロ

東京メトロ各駅のエレベーターやホームベンチの有無が分かるサービスを提供しています。 <https://www.babymetro.jp/>

エレベーターでいけるかな?と思ったら

「ベビーメトロ」の本サービス化決定!

2019年8月1日~

駅情報 乗車位置案内 地図 構内図

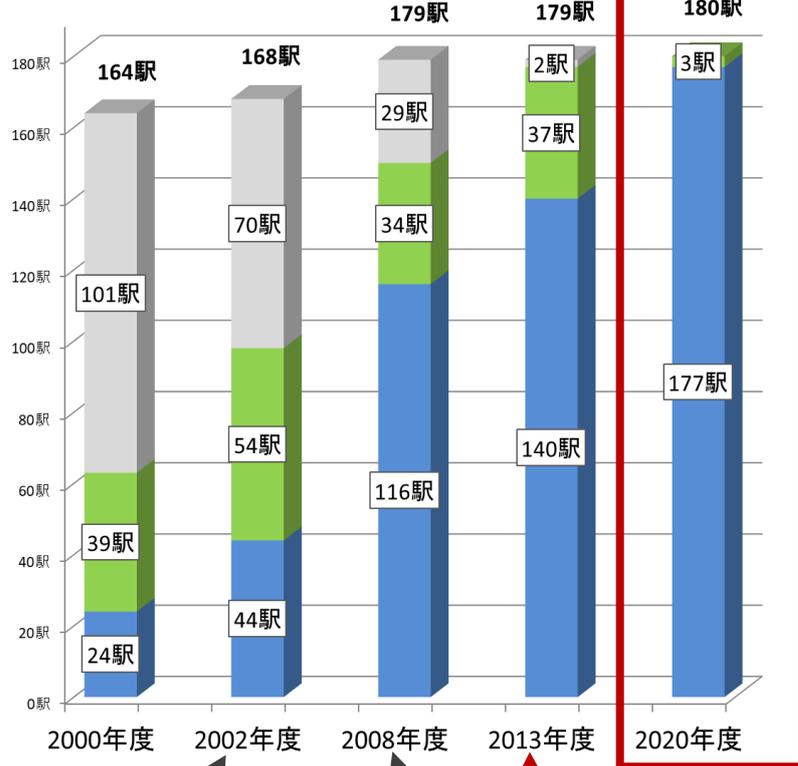
少しでもお役に立てれば幸いです

◎東京2020大会に向けたエレベーターの整備

東京メトロの駅に初めてエレベーターが導入されたのは、1991年11月の南北線開業時からです。それ以降、社会全体のバリアフリー化に対する動きや法の制定といった背景も後押しとなり、東京メトロの駅でも急速に整備を進めてきました。

現在、東京2020大会に向けて車いす利用者がエレベーター・スロープにより単独で移動可能となるよう、エレベーター1ルートや会場最寄駅を中心に複数ルート・乗換ルートを整備するため、20駅以上の駅で同時に工事を進めており、大会開催時にはエレベーターの設置基数が約400基に達する見込みです。

■エレベーターの整備推移



半蔵門線 延伸区間開業 (水天宮前駅～押上駅)
副都心線開業
東京2020大会 開催決定

■未整備
■段差解消1ルート※
■エレベーター1ルート

※車いす利用者がエレベーター、スロープ、車いす対応エスカレーター、階段昇降機を用いて、ホームから地上まで移動できること。

2020年夏時点 エレベーター1ルート 177駅 (98%) 整備完了予定※
※日比谷線虎ノ門ヒルズ駅を含む

■最近の整備事例 (一部)



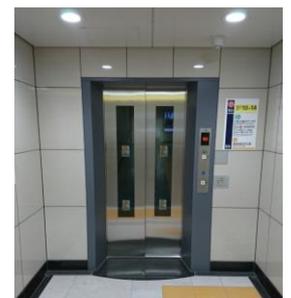
銀座線日本橋駅 (2018年度/1ルート)



丸ノ内線四谷三丁目駅 (2018年度/1ルート)



丸ノ内線新宿御苑前駅 (2019年度/1ルート)



銀座線溜池山王駅 (2019年度/複数ルート)

■会場最寄駅のエレベーター整備状況

駅名	種類
銀座線・半蔵門線 青山一丁目駅	複数ルート工事中
銀座線 外苑前駅	複数ルート工事中
千代田線・副都心線 明治神宮前駅	複数ルート整備済
東西線・半蔵門線 九段下駅	乗換ルート工事中
東西線 竹橋駅	1ルート工事中
有楽町線 有楽町駅	複数ルート整備済
有楽町線 豊洲駅	複数ルート整備済
有楽町線 新木場駅	1ルート整備済
有楽町線 辰巳駅	複数ルート整備済

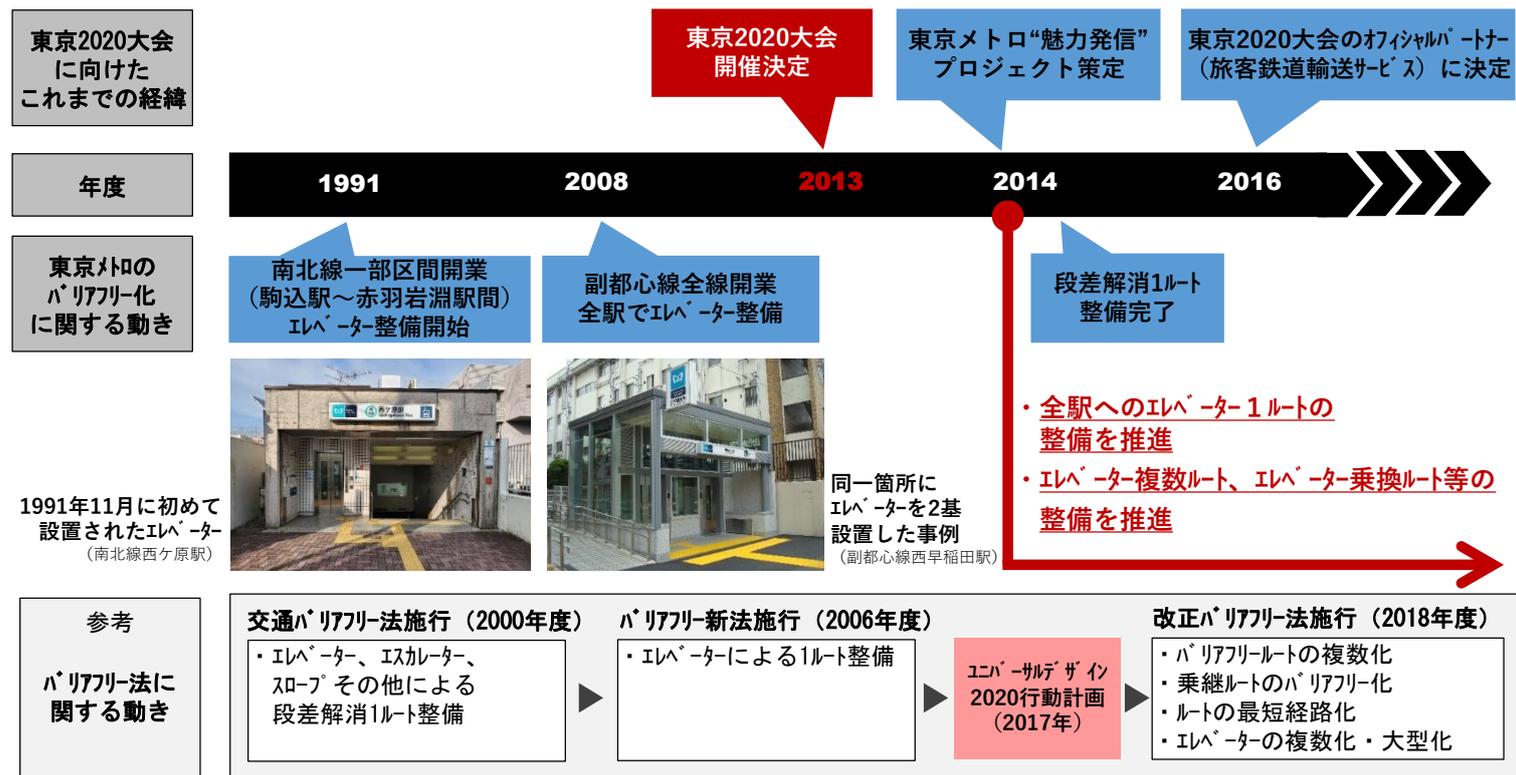


外苑前駅 (完成イメージ)

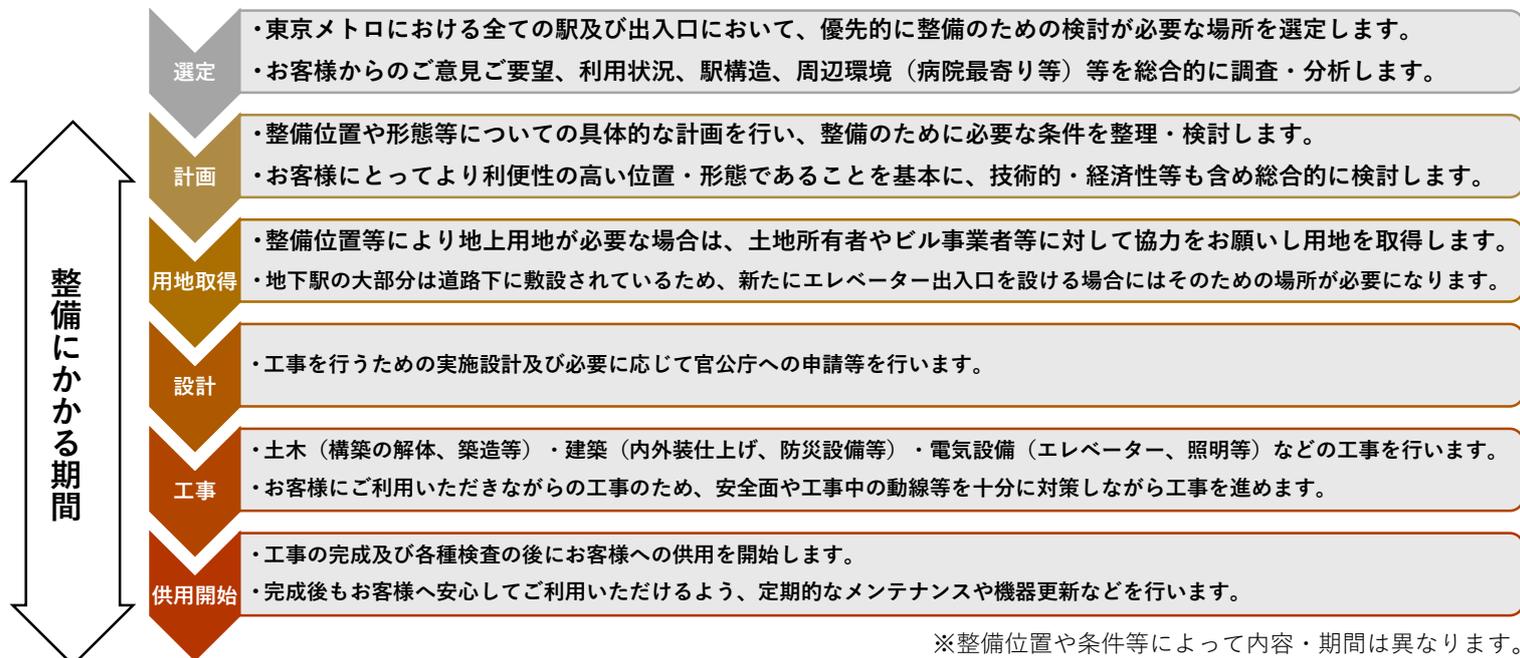


青山一丁目駅 (完成イメージ)

◎東京2020大会に向けたこれまでの経緯とバリアフリー化に関する動き



東京メトロの駅におけるエレベーター整備には、以下に示すような様々なプロセスを経て通常5～10年もの期間がかかります。東京2020大会決定からの短い期間ですが大会に間に合うよう急ピッチで整備を進めています。



◎おわりに

近年は、当社単独での整備のほかにも駅周辺で再開発事業者や地権者と連携する「公募型連携プロジェクト」、「えき・まち連携プロジェクト」などの取り組みを行い、バリアフリー設備の整備を推進しています。工事期間中お客様にはご迷惑をおかけいたしますが、首都圏の鉄道ネットワークの中核を担う交通事業者として安心・安全でよりよいサービスを提供できるように貢献してまいりますので、一層のご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。